

Dream Plan

平成28年度ドリームプラン

「學展」に参加して

家政学部造形表現学科3年 春日里友 石井梓

私達は8月27日の土曜日、東京ビッグサイトにて行われる『學展』にメンバー三人で出展した。きっかけとなったのは二年前、メンバーの一人とデザインフェスタに参加した際「いつかここに自分達の作品を展示できたら」と話した事だった。それを実現するため私達はこの二年間で各々制作や企画力を学び、イベントに向けての経験を積むため下北沢で展示会を開くなど、グループでの活動の幅を広げていった。

展示する作品のテーマは『笑顔になる贈り物』。これは、いつも支えてくれている周囲の人たちへ私達の思いを込めた作品を贈りたいという意味を込めて決めた。

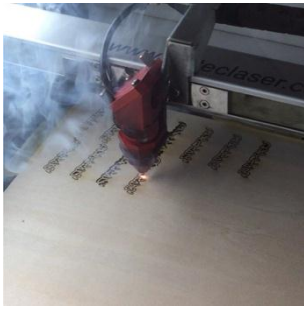
アクセサリーや時計のほか、お祝い事に使える部屋の装飾品の販売に加え、制作物をラッピングするサービスなどを考えたが、私達が予定していた予算ではそれを実現することができなかった。予算を低く設定し、お金を貰う事を目的とせず展示のみを行う事も考えたが、學展後の活動としてインターネット上にショップを開設し、売り上げを新たな作品作りの費用にあてるという大きな目標があったため、作品に妥協はしなくなかった。そこで私達は何度も話し合いを重ね、大学の後援会ドリームプラン奨学金に申し込む事を決めた。

それからは、当日までの少ない期間の中で奨学金選考の面接に向けての書類作りと並行して制作物の話し合い、ブースの設営アイデアや制作物にかかる費用の計算など、やらなければならないことが多かったが、それぞれ得意とする分野で仕事を分担し効率よく進められるよう努力した。この点は、過去の展示会の経験がよく活かされたと思う。仕事の量が誰かに偏る事もなく、ここまでの作業はとてもスムーズに進んだ。

計画や予算案などがまとまった後は、主題についてどうしたいかを三人それぞれが考え、簡単なプレゼンをした。そうすることで各々の主張が明確になり、方向性を確認しあえた。

一つ目に、アクセサリー制作では、レーザーカッターで木材を加工し、金具を自分たちで選び調達してから作業する流れだった。慣れない作業で四苦八苦したが、クオリティは

三人が納得するまで追求した為、結果とても素敵な作品が出来上がった。



レーザーカット作業



二つ目に、ショップ名とロゴでは、出展のコンセプトが『笑顔になる贈り物』であること、アクセサリを木材で制作することの二つをメインに考え、「catron」という名前にした。これはフランス語で贈り物という意味の *cadeau*、木の幹という意味の *tronc* を組み合わせた造語である。オリジナリティと言葉の響きを重視した。ロゴは、制作の過程で木やプレゼントボックスをモチーフにしたデザイン案もあったが、ブランド名がぱっと見てわかるように工夫した。Ai データで作成したが、扱いが慣れていなかったので多少時間がかかってしまった。しかし自分たちで調べ実践することで、これから先使える能力を身につけられた。



ロゴ案

三つ目に、当日の衣装はベースの色を白にして、三人それぞれのテーマカラーを決めた。あくまでもアクセサリメインであったので、衣装ばかりに時間をかけず、なるべく作業が簡潔になるように加工はなるべくしないようにした。しかし、通信販売で買ったものがイメージと違ったり、リボンの加工の裁ち目が粗くなってしまうという問題が出てきた。自分たちの技量とコストパフォーマンスのちょうどいいバランスを見定める能力が必

要であったのだと思う。



作業の光景

メンバーの一人が社会人で集まる日程が中々合わなかった為、準備期間の前半は直接ではなく間接的に文章で話し合うことが多かった。記録にはしやすかったものの、言葉のすれ違いや誤解がいくつか見受けられた。そこで、後半はミーティングする日を予め練って出来るだけ予定を空けるようにした。その結果、作業も無事に間に合うことが出来、三人それぞれ自分が得意なことを中心に行動したので、無理な負担は無かった。

デザインフェスタ当日は、朝の7時から会場設置を始めた。思っていたよりもスムーズに設置ができたので、11時の開場まで比較的ゆとりがあった。

開場されてから時間が経つのはあっという間であった。人気のブースと比べると、多くの方が立ち止まってくれたわけではなかったが、1時間に十何人かは立ち止まり見ていてくれた。客層は20～40代の女性が多かった。出展ブースをSNSで事前にチェックして来場される方が多かったそうで、SNSでの宣伝が少なかったなど反省した。

来場者数は春に開催されたイベントと比べると少なめだった。少なかったのは、当日の天気は雨で、台風予報が出ていたことが大きいと思われる。もう一つは、従来から開催されてるデザインフェスタと學展の二つのイベントを、同時開催したのは今回が初めてということもあって、出展者も来場者も様子見というような雰囲気が見えた。今後、充実した大きな催しになっていけばいいなと感じた。



設営時の光景



設営完了時

終えてみた感想としては、「木」という素材を使用したことは成功だった。アクセサリーには、なかなか使わない素材なので、お客さんから新鮮なリアクションがあった。

しかし「木」にこだわった結果、それに予算の多くを使用してしまった。原因は、木材のアクセサリーを初めて制作したのもあって試行錯誤を繰り返し、木材代やレーザーカット代などが、予定よりも多くかかってしまった為である。そして、質（デザイン）の良さを追求した結果、時間もアクセサリー分の予算も足りなくなった。そのため他のブースと比べて品数が少なかった。今後、個人で制作する機会が出来たら、アクセサリー販売することが実現可能かを制作の前に把握していきたい。

木材のアクセサリーは難しい部分が多かったが、完成した時の喜びは計り知れなかった。クオリティはどのブースにも負けていなかった。また、時計が完売したのはとても嬉しかった。そして何よりも、立ち止まってくれたお客さんから言葉をもらったこと、購入してくださったお客さんが笑顔で「すごく素敵ですね」とお褒めの言葉をかけてくださったのが嬉しかった。反省点は多くあったが、今回のテーマであった『笑顔になる贈り物』を達成できたと心から感じた。

今回後援会ドリームプラン奨学金をいただくことができ、とても感謝している。